(19)日本国特許庁(JP)

(12)登録実用新案公報(U)

(11)登録番号
実用新案登録第3251659号
(U3251659)

(45)発行日　令和7年6月17日(2025.6.17)

(24)登録日　令和7年6月9日(2025.6.9)

(51)国際特許分類
Ｄ０６Ｆ　57/12　(2006.01)

ＦＩ
Ｄ０６Ｆ　57/12　Ｒ

評価書の請求　未請求　請求項の数　8　ＯＬ　（全12頁）

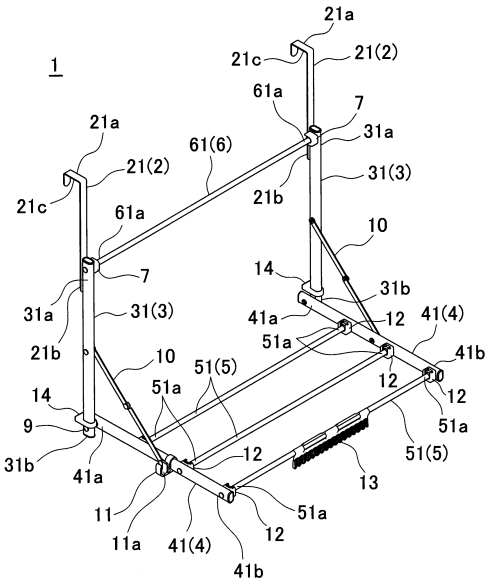
(21)出願番号　実願2025-1219(U2025-1219)
(22)出願日　令和7年4月18日(2025.4.18)
新規性喪失の例外適用申請有り

(73)実用新案権者　508001729
株式会社ＬＩＶ　ＰＬＵＳ
大阪府大阪市中央区島之内一丁目２２番９号
(74)代理人　100085316
弁理士　福島 三雄
(74)代理人　100171572
弁理士　塩田 哲也
(74)代理人　100213425
弁理士　福島 正憲
(74)代理人　100221707
弁理士　宮崎 洋介
(74)代理人　100099977
弁理士　佐野 章吾
(74)代理人　100104259

最終頁に続く

(54)【考案の名称】　物干し具

(57)【要約】
【課題】組み立てが容易で、狭い室内にも設置でき、かつ、接触などによる転倒のおそれがなく、安心して洗濯物を干すことができる物干し具を提供する。
【解決手段】開き扉の上端に着脱可能に装着される一対の吊下げ部２と、一対の吊下げ部２のそれぞれから下方に延在する一対の縦枠部材３，３と、一対の縦枠部材３，３の内側に配置され、基端４１ａが縦枠部材３に連結され、基端４１ａを中心に先端４１ｂが回動可能に配設された一対の旋回部材４，４とを有してなり、一対の旋回部材４，４は、先端４１ｂを上にして縦枠部材３，３に沿わせた収納位置と、先端４１ｂを縦枠部材３と略直交する位置まで引き出した展開位置との間で回動可能とされ、かつ、一対の旋回部材４，４同士の間に洗濯物を干す物干し竿となる複数の横架部材５，５，…が架け渡される。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
開き扉の上端に着脱可能に装着される一対の吊下げ部と、
前記一対の吊下げ部のそれぞれから下方に延在する一対の縦枠部材と、
前記一対の縦枠部材の内側に配置され、一端が前記縦枠部材に連結され、前記一端を中心に他端が回動可能に配設された一対の旋回部材とを有してなり、
前記一対の旋回部材は、前記先端を上にして前記縦枠部材に沿わせた収納位置と、前記先端を前記縦枠部材と略直交する位置まで引き出した展開位置との間で回動可能とされ、かつ、前記一対の旋回部材同士の間には複数の横架部材が架け渡されている
ことを特徴とする物干し具。
【請求項２】
前記一対の縦枠部材には、前記一対の旋回部材が上下に間隔を空けて複数備えられている
ことを特徴とする請求項１に記載の物干し具。
【請求項３】
前記一対の縦枠部材は、少なくとも一方の旋回部材に、一端が前記縦枠部材に取り付けられ、他端が前記旋回部材に取り付けられた連結補助機構を有し、この連結補助機構によって、前記旋回部材は前記展開位置を保持する構造とされている
ことを特徴とする請求項１または２に記載の物干し具。
【請求項４】
前記横架部材は、前記一対の旋回部材に着脱可能に取り付けられている
ことを特徴とする請求項１または２に記載の物干し具。
【請求項５】
前記一対の旋回部材は、少なくとも一方の旋回部材に、前記収納位置で前記縦枠部材と着脱可能に係合して前記収納位置を保持する係合具が備えられている
ことを特徴とする請求項１または２に記載の物干し具。
【請求項６】
前記吊下げ部は、前記開き戸の上端に着脱自在に装着される鉤状の部材で構成されていることを特徴とする請求項１または２に記載の物干し具。
【請求項７】
前記一対の縦枠部材は、当該一対の縦枠部材同士の間に１または複数の補強部材が着脱可能に架け渡されている
ことを特徴とする請求項１または２に記載の物干し具。
【請求項８】
前記横架部材および前記補強部材が伸縮可能な部材で構成されている
ことを特徴とする請求項７に記載の物干し具。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この考案は物干し具に関し、より詳細には、屋内の開き扉に吊下げて使用することができる物干し具に関する。
【背景技術】
【０００２】
近年、花粉や黄砂などの飛散によってアレルギー症状を発症する人が増えている。花粉や黄砂などのアレルギー症状は大気中に含まれる花粉や黄砂などを吸い込むことで発症するため、洗濯物を干すにあたり、花粉や黄砂などが付着しやすい屋外を避けて、花粉や黄砂などの付着が少ない室内に洗濯物を干す室内干しが増えている。
【０００３】
ところで、室内干しは、室内にロープや物干し竿を架け渡し、架け渡したロープや物干し竿に洗濯物を干すスタイルが古くから知られているが、近年の住宅にはロープや物干し

竿を架け渡す場所がないことが多く、そのため、自立型の物干しスタンドを室内で用いることが多くなっている（たとえば、特許文献１参照）。

【０００４】

しかし、自立型の物干しスタンドは、室内に物干しスタンドを設置するスペースを確保する必要があるため、狭い室内に設置するのが困難であった。また、自立型の物干しスタンドは、人やペットなどとの接触によってバランスを崩し、転倒するおそれがあった。

【０００５】

加えて、この種の物干しスタンドの多くは組み立て式の形態とされているが、その多くは部品点数が多く、また、組み立てにネジやドライバーなどの工具を必要とするため、組み立てが容易でなく、完成までに時間を要するという問題がある。特に、高齢者においては組み立てが困難であった。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００６】

【特許文献１】特開２０１８－１１７９９９号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【０００７】

本考案は、このような問題点に鑑みてなされたものであって、その目的とするところは、組み立てが容易で、狭い室内にも設置することができ、かつ、接触などによる転倒のおそれがなく、安心して洗濯物を干すことができる物干し具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

上記目的を達成するため、本考案に係る物干し具は、開き扉の上端に着脱可能に装着される一対の吊下げ部と、上記一対の吊下げ部のそれぞれから下方に延在する一対の縦枠部材と、上記一対の縦枠部材の内側に配置され、一端が上記縦枠部材に連結され、上記一端を中心に他端が回動可能に配設された一対の旋回部材とを有してなり、上記一対の旋回部材は、上記先端を上にして上記縦枠部材に沿わせた収納位置と、上記先端を上記縦枠部材と略直交する位置まで引き出した展開位置との間で回動可能とされ、かつ、上記一対の旋回部材同士の間には複数の横架部材が架け渡されていることを特徴とする。

【０００９】

この物干し具によれば、吊下げ部を開き扉の上端に装着し、旋回部材を展開位置まで引き出すことで、旋回部材に架け渡された複数の横架部材が略水平方向に並んで配置されるので、ユーザは横架部材を洗濯物干しとして直接またはハンガーなどの補助具を介して洗濯物を干すことができる。そのため、本考案によれば、開き扉の前の空きスペースを利用して洗濯物を干すことができる。また、吊下げ部を介して開き扉の上端に装着される構造のため、人などが接触しても物干し具が転倒するおそれはない。また、旋回部材を折り畳み可能としたことで、旋回部材を折り畳んだコンパクトな状態で販売することができ、購入後の煩雑な組み立て作業を省略することができる。

【００１０】

本考案に係る物干し具は、好適な実施態様として、以下の構成が採用される。

（１）上記一対の縦枠部材には、上記一対の旋回部材が上下に間隔を空けて複数備えられる。この考案によれば、上下方向に複数の洗濯物干しが配設されることになるので、より多くの洗濯物を干すことができ、開き扉の前の空間を有効に利用できる。

【００１１】

（２）上記一対の縦枠部材は、少なくとも一方の旋回部材に、一端が上記縦枠部材に取り付けられ、他端が上記旋回部材に取り付けられた連結補助機構を有し、この連結補助機構によって、上記旋回部材は上記展開位置を保持する構造とされる。この考案によれば、展開位置まで引き出された旋回部材は、連結補助機構によって展開位置が保持されるので、洗濯物の重量によって展開位置を保持できなくなるおそれが解消される。そのため、洗濯

物の量や重さを気にすることなく、多くの洗濯物を干すことができる。
【００１２】
（３）上記横架部材は、上記一対の旋回部材に着脱可能に取り付けられる。この考案によれば、横架部材の着脱によって横架部材同士の間隔を調節することができる。そのため、隣接する横架部材に干された洗濯物同士が干渉するのを避けることができ、洗濯物を効率的に干すことができる。
【００１３】
（４）上記一対の旋回部材は、少なくとも一方の旋回部材に、上記収納位置で上記縦枠部材と着脱可能に係合して上記収納位置を保持する係合具が備えられる。この考案によれば、旋回部材を収納位置に配置することにより、係合具が縦枠部材と係合して旋回部材が収納位置に保持される。そのため、収納位置にある旋回部材が誤って展開されるおそれがなく、物干し具の持ち運びや保管が容易になる。
【００１４】
（５）上記吊下げ部は、上記開き戸の上端に着脱自在に装着される鉤状の部材で構成される。この考案によれば、鉤状の部材の掛け外しによって開き扉への物干し具の装着、取り外しを容易に行うことができる。
【００１５】
（６）上記一対の縦枠部材は、当該一対の縦枠部材同士の間に１または複数の補強部材が着脱可能に架け渡される。この考案によれば、縦枠部材の位置関係が補強部材によって補強されるので、洗濯物の重量によって縦枠部材がよじれたりずれたりすることが防止され、多くの洗濯物を安定的に干すことができる。
【００１６】
（７）上記横架部材および上記補強部材が伸縮可能な部材で構成される。これにより、たとえば、開き扉の幅寸法に応じて物干し具の横幅を調節することができ、開き扉の前の限られた空間を有効に利用することができる。
【考案の効果】
【００１７】
本考案によれば、開き扉の上端に着脱可能に装着される一対の吊下げ部と、一対の吊下げ部のそれぞれから下方に延在する一対の縦枠部材と、一対の縦枠部材の内側に配置され、一端が縦枠部材に回動自在に連結され、上記一端を中心に他端が回動可能に設けられた一対の旋回部材とを有し、一対の旋回部材が先端を上にして縦枠部材に沿わせた収納位置と、先端を縦枠部材と略直交する位置まで引き出した展開位置との間で回動可能とされ、かつ、一対の旋回部材同士の間に複数の横架部材が架け渡されているので、開き扉の前の空きスペースを利用して洗濯物を干すことができる。また、吊下げ部を介して開き扉の上端に装着される構造のため、接触による転倒のおそれのない物干し具を提供することができる。また、旋回部材を折り畳み可能としたことで、旋回部材を折り畳んだコンパクトな状態で販売することができ、購入後の煩雑な組み立て作業を省略することができる。そのため、高齢者にとっても使い勝手のよい物干しを提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１８】
【図１】本考案に係る物干し具の外観構成の一例を示し、同物干し具の旋回部材を引き出した展開状態を示す斜視図である。
【図２】同物干し具の正面図である。
【図３】同物干し具の左側面図である。
【図４】同物干し具の旋回部材を折り畳んだ収納状態を示す斜視図である。
【図５】同物干し具の他の実施形態の一例を示し、同物干し具における２つの旋回部材を引き出した展開状態を示す斜視図である。
【図６】同物干し具の他の実施形態の一例を示し、同物干し具における２つの旋回部材を折り畳んだ収納状態を示す斜視図である。
【考案を実施するための形態】

【００１９】
以下、本考案の実施形態を図面に基づいて詳細に説明する。
実施形態１
図１は本考案に係る物干し具の外観構成を示している。図１に示す物干し具１は、室内の開き扉Ｄ（図示せず）に装着して使用する物干し具であって、一対の吊下げ部２，２と、一対の縦枠部材３，３と、一対の旋回部材４，４と、複数の横架部材５，５，…とを主要部として備えている。
【００２０】
吊下げ部２は、物干し具１を室内の開き扉Ｄに着脱可能に装着するための吊下げ具であって、本実施形態では、開き扉Ｄの上端に着脱自在に装着される一対の鉤状の部材（以下、「鉤状部材」と称する。）２１，２１で構成される。鉤状部材２１は、その先端２１ａが略コ字状に曲折された金属製の板材で構成されており、先端２１ａに形成されたコ字状の鉤状部２１ｃが開き扉Ｄの上端に篏合可能な形状・寸法を有している。なお、吊下げ部２は、開き扉Ｄの上端に着脱可能に装着できる形状・構造を有していればよく、図示の形状には限定されない。
【００２１】
縦枠部材３は、一対の吊下げ部２，２のそれぞれから下方に延在する棒状の部材であって、本実施形態では、断面が略偏平楕円形状を呈する金属製のパイプ（以下、「縦枠パイプ」と称する。）３１で構成される。この縦枠パイプ３１は、図１に示すように、左右に所定の間隔を開けて一対配置される。配置にあたっては、縦枠パイプ３１，３１の外周に形成された平坦面同士が対向するように配置される。
【００２２】
一対の縦枠パイプ３１，３１の間には、縦枠パイプ３１，３１同士の間隔を規定するとともに、物干し具１の強度を補強する補強部材６が備えられる。図示例では、補強部材６として、断面が略円形の金属製のパイプ（以下、「補強パイプ」と称する。）６１が用いられており、この補強パイプ６１が縦枠パイプ３１，３１の上端３１ａに架け渡されている。ここで、補強パイプ６１を縦枠パイプ３１の上端３１ａに配置するのは、後述する旋回部材４を折り畳んで収納位置（図４参照）に配置したときに、旋回部材４の先端が補強パイプ６１と干渉するのを回避するためである。したがって、補強パイプ６１の配設位置や配設数などは、旋回部材４と補強パイプ６１とが干渉しない範囲で適宜変更可能である。
【００２３】
補強パイプ６１の配設にあたっては、各縦枠パイプ３１，３１の上端３１ａに、補強パイプ６１を着脱可能に装着するパイプ装着具７が備えられている。パイプ装着具７は、補強パイプ６１の端部６１ａと篏合可能な略Ｕ字状の凹状溝を有する樹脂製の部材で構成され、補強パイプ６１の端部６１ａがこの凹状溝に着脱可能に篏合するようになっている。本実施形態では、パイプ装着具７は、凹状溝に嵌め込まれた補強パイプ６１が容易に脱落しないようにする脱落防止構造（たとえば、凹状溝の内周面に脱落防止用の小さな突起を設けるなど）を有している。
【００２４】
そして、各縦枠パイプ３１，３１の上端（一端）３１ａには、それぞれ鉤状部材２１の基端２１ｂが連結固定されるとともに、その下端（他端）３１ｂには、それぞれ旋回部材４が回動可能に取り付けられる。
【００２５】
本実施形態では、鉤状部材２１の基端２１ｂと縦枠パイプ３１の上端３１ａの双方に穿設された貫通孔（図示せず）を重ね合わせ、重ね合わせた貫通孔に留め具８（たとえば、樹脂製または金属製のプッシュリベットなど）を装着することにより、鉤状部材２１が縦枠パイプ３１に連結固定されている（図３参照）。
【００２６】
一方、縦枠パイプ３１の下端３１ｂに取り付けられる旋回部材４は、物干し竿となる横

架部材５を備えた部材であって、上記縦枠部材３に対応して左右一対で構成される。旋回部材４は、基端（一端）４１ａが縦枠パイプ３１に連結され、基端４１ａを中心に先端（他端）４１ｂが回動可能に配設された棒状の部材で構成され、本実施形態では、上述した縦枠パイプ３１と同様に、断面が略偏平楕円形状を呈する金属製のパイプ（以下、「旋回パイプ」と称する。）４１で構成されている。旋回パイプ４１，４１は、図１に示すように、一対の縦枠パイプ３１，３１の内側に、縦枠パイプ３１，３１に隣接して配置される。配置にあたっては、上述した縦枠パイプ３１,３１と同様に、外周に形成された平坦面同士が対向するように配置される。

【００２７】

旋回部材４の縦枠パイプ３１への連結は、旋回パイプ４１の基端４１ａを中心にして、先端４１ｂ側が回動可能となるように連結される。本実施形態では、縦枠パイプ３１の下端３１ｂと旋回パイプ４１の基端４１ａの双方に穿設された貫通孔（図示せず）を重ね合わせ、重ね合わせた貫通孔に、旋回パイプ４１の回動中心となる連結具９（たとえば、樹脂製または金属製の連結ピンなど）が装着されており、この連結具９を中心として旋回パイプ４１が回動可能とされている。

【００２８】

そしてこの連結に関連して、本実施形態に示す物干し具１では、一端が縦枠パイプ３１に取り付けられ、他端が旋回パイプ４１に取り付けられた連結補助機構１０が備えられている。連結補助機構１０は、縦枠部材３に回動可能に取り付けられた旋回部材４の引き出し（展開）と折り畳み（収納）を補助する機構部であって、この連結補助機構１０により、引き出された旋回部材４が後述する展開位置を保持できるようになっている。

【００２９】

本実施形態では、連結補助機構１０は二つ折りに折り畳み可能な金属製のステーで構成される。このステーは、中央の連結部を中心に両端部を展開した（両端部を略水平に開いた）展開状態と、連結部を中心に両端部を二つ折りに折り畳んだ（両端部を重ね合わせた）収納状態との間で開閉できる構造を有しており、この連結補助機構１０の働きによって、旋回部材４が、旋回パイプ４１の先端４１ｂを上にして縦枠パイプ３１に沿わせた収納位置（図４参照）と、先端４１ｂを縦枠パイプ３１と略直交する位置まで引き出した展開位置（図１～図３参照）との間で回動可能とされている。

【００３０】

また、これに関して、本実施形態では、一方の旋回パイプ４１に、旋回パイプ４１，４１を折り畳んで収納位置に配置したときに、縦枠パイプ３１と着脱可能に係合して収納位置を保持する係合具１１が備えられている。係合具１１は、縦枠パイプ３１と嵌合可能な略Ｕ字状の凹状係合溝１１ａを有する樹脂製の部材で構成され、旋回パイプ４１を収納位置に配置したときに、凹状係合溝１１ａに縦枠パイプ３１が嵌合する構造とされている。なお、この凹状係合溝１１ａは、上述したパイプ装着具７と同様に、溝の内周に内周面に脱落防止構造が備えられており、嵌め込まれた縦枠パイプ３１が容易に脱落しないようになっている。また、図示例では、係合具１１を一方の旋回パイプ４１にのみに設けた場合を示したが、一対の旋回パイプ４１，４１の双方に係合具１１を設けるように構成してもよい。

【００３１】

横架部材５は、洗濯物を干すための物干し竿を構成する部材であって、一対の旋回パイプ４１，４１同士の間に複数（図示例では３本）の横架部材５，５，…が架け渡されている。本実施形態では、この横架部材５は、断面が略円形の金属製のパイプ（以下、「横架パイプ」と称する。）５１で構成され、旋回パイプ４１，４１同士の間に所定の間隔（たとえば、１０ｃｍ程度の間隔）を開けて配設される。なお、図示例では、横架部材５として３本の横架パイプ５１，５１，…を配設した場合を示したが、横架パイプ５１の配設数は旋回パイプ４１の長さ寸法に応じて適宜増減変更可能である。また、図示例では、横架パイプ５１を等間隔で配置した場合を示したが、横架パイプ５１同士の間隔は任意に設定可能である。

【００３２】
横架パイプ５１の配置にあたっては、上述したパイプ装着具７と同様の構造を有する横架パイプ装着具１２が用いられる。横架パイプ装着具１２は、横架パイプ５１の端部５１ａと嵌合可能な略Ｕ字状の凹状溝を有する樹脂製の部材で構成され、横架パイプ５１の端部５１ａがこの凹状溝に着脱可能に嵌合するようになっている。そして、横架パイプ装着具１２の凹状溝には、上述したパイプ装着具７と同様に、横架パイプ５１の脱落防止構造が備えられており、凹状溝に嵌め込まれた横架パイプ５１が容易に脱落しないようになっている。また、横架パイプ装着具１２の凹状溝は、図１に示すように、旋回部材４を展開位置に配置したときに、開口側が上向きとなるように旋回パイプ４１の平坦面に取り付けられている。これにより、旋回部材４を展開位置に配置した状態で、横架パイプ５１の着脱ができるようになっている。
【００３３】
なお、図において符号１３で示すのは靴下ばさみである。靴下ばさみ１３は、靴下を干す際に使用する補助具である。図示の靴下ばさみ１３は、複数の洗濯ばさみを横一列に連結してなる形態とされ、洗濯ばさみの基端側に靴下ばさみ１３を横架パイプ５１に着脱可能に装着するための装着部が備えられている。図示例では、靴下ばさみ１３を横架パイプ５１に装着した場合を示したが、靴下ばさみ１３は横架パイプ５１以外の部位、たとえば、補強パイプ６１に装着することも可能である。
【００３４】
また、符号１４で示すのは、物干し具１によって開き扉Ｄの表面に傷がつくのを防止するための緩衝具である。この緩衝具１４は、縦枠パイプ３１の下端３１ｂに装着される樹脂製の部材であって、図１および図３に示すように、縦枠パイプ３１の後方に突出する突出部を備えており、物干し具１を開き扉Ｄに吊下げた際に、この突出部が開き扉Ｄの表面と当接することで、縦枠パイプ３１の下端３１ｂや旋回パイプ４１の基端４１ａが開き扉Ｄと接触するのを防止するようになっている。
【００３５】
次に、このように構成された物干し具１の使い方について簡単に説明する。
（１）物干し具１は、物干しとして使用しない場合、図４に示すように、旋回部材４を折り畳んだ状態、すなわち、旋回パイプ４１，４１を縦枠パイプ３１，３１の内側に収容した状態（収納位置）にしておく。これにより、物干し具１をコンパクトに折り畳むことができ、収納や持ち運びが容易になる。
【００３６】
（２）これに対し、物干し具１を物干しとして使用する場合、まず吊下げ部２を開き扉Ｄの上端に引っ掛けて、物干し具１を開き扉Ｄに吊下げる。本実施形態では、吊下げ部２はコ字状の鉤状部２１ｃを有する形態とされているので、左右一対の鉤状部２１ｃ，２１ｃをそれぞれ開き扉Ｄの上端に引っ掛けて装着する。これにより、物干し具１が開き扉Ｄの一方の面（たとえば、室内側の扉面）の前に吊下げられる。
【００３７】
そして、物干し具１を開き扉Ｄに吊下げると、その状態で、縦枠パイプ３１，３１の間に収容されている旋回部材４を手前に引き出す。具体的には、図１に示すように、旋回パイプ４１が縦枠パイプ３１と略直交する位置（展開位置）まで旋回部材４を引き出す。これにより、連結補助機構１０が展開状態となり、旋回パイプ４１，４１が展開位置に保持される。
【００３８】
旋回部材４を展開位置に配置すると、旋回パイプ４１，４１の間に架け渡された複数の横架部材５，５，…は、図１に示すように、略水平に配置される。ユーザは、水平に配置された横架部材５，５，…を物干し竿として使用する。すなわち、旋回部材４には複数の横架部材５，５，…が並んで配置されるので、この横架部材５に直接またはハンガーなどの補助具を介して洗濯物を干す。その際、横架部材５に干された洗濯物が隣接する横架部材５と干渉する場合には、当該隣接する横架部材５を取り外すことで、隣接する横架部材

５と干渉を回避することができる。
【００３９】
　このように、開き扉Ｄの前に吊下げられた物干し具１に洗濯物を干すことで、開き扉Ｄの前の空きスペースを有効に利用して洗濯物を干すことができる。また、物干し具１は、吊下げ部２を介して開き扉Ｄの上端に装着される構造のため、人などが接触しても物干し具１が転倒するおそれはなく、洗濯物を安全に干すことができる。
【００４０】
実施形態２
　次に、本考案の第２の実施形態を図５および図６を用いて説明する。
　この第２の実施形態に示す物干し具１′は、縦枠部材３に備えられる旋回部材４の数を改変したものであって、その他の構成は実施形態１に示す物干し具１と共通する。したがって、構成が共通する部分については同一の符号を付して重複した説明は省略する。
【００４１】
　本実施形態に示す物干し具１′は、一対の縦枠部材３，３に上下に間隔を空けて複数（図示例では２基）の旋回部材４，４が備えられている。具体的には、図５に示すように、縦枠パイプ３１の上端３１ａと下端３１ｂの中間位置と、縦枠パイプ３１の下端３１ｂとの２か所に一対の旋回部材４，４が配置される。
【００４２】
　縦枠パイプ３１に配置される上下２組の旋回部材４，４は、いずれも上述した実施形態１と同様に、旋回パイプ４１の基端４１ａが縦枠パイプ３１に連結され、基端４１ａを中心に先端４１ｂが回動可能に配設される。また、上下２組の旋回パイプ４１，４１には、いずれも上述した実施形態１と同様に、連結補助機構１０が備えられるとともに、旋回パイプ４１，４１同士の間に複数（図示例では３本）の横架部材５，５，…が着脱可能に架け渡される。なお、本実施形態では、旋回パイプ４１を縦枠パイプ３１に着脱可能に係合する係合具１１と、横架部材５に靴下を吊下げる靴下ばさみ１３は省略している。
【００４３】
　また、本実施形態に示す物干し具１′は、旋回部材４を追加に伴って縦枠部材３，３の長さが延長されるので、それに伴って複数の補強部材６が備えられている。すなわち、本実施形態に示す物干し具１′では、縦枠パイプ３１の上端３１ａと、縦枠パイプ３１の上端３１ａおよび下端３１ｂの中間位置とに、補強パイプ６１が架け渡されている。
【００４４】
　このように、本実施形態に示す物干し具１′では、開き扉Ｄに吊下げられた縦枠部材３，３に上下に間隔を空けて複数の旋回部材４，４が備えられるので、洗濯物を上下に間隔を開けて多段に干すことができる。その結果、実施形態１に示す旋回部材４が一段の物干し具１に比して、より多くの洗濯物を干すことができ、開き扉Ｄの前の空間を有効に利用することができる。
【００４５】
実施形態３
　次に、本考案の第３の実施形態について説明する。
　この第３の実施形態に示す物干し具は、上述した実施形態１および２に記載の物干し具１，１′において、横架部材５および補強部材６の構造を改変したものであって、その他の構成は実施形態１，２に示す物干し具１，１′と共通する。したがって、構成が共通する部分については同一の符号を付して重複した説明は省略する。
【００４６】
　本実施形態に示す物干し具１，１′は、横架部材５を構成する横架パイプ５１と、補強部材６を構成する補強パイプ６１とに、それぞれ伸縮可能なパイプを使用する。たとえば、横架パイプ５１と補強パイプ６１のそれぞれを構成するパイプ材としてテレスコピックパイプを使用する。これにより、横架パイプ５１と補強パイプ６１の双方が伸縮自在に構成され、開き扉Ｄの幅に合わせて物干し具１，１′の横幅を自在に伸縮させることができる。このように構成することで、開き扉Ｄ前の限られたスペースを無駄なく有効に物干し

空間として利用することができる。

【００４７】

なお、上述した実施形態はあくまでも本考案の好適な実施態様を示すものであって、本考案はこれらに限定されることなくその範囲内で種々の設計変更が可能である。

【００４８】

たとえば、上述した実施形態では、縦枠パイプ３１、旋回パイプ４１、横架パイプ５１および補強パイプ６１のすべてを金属製のパイプで構成した場合を示したが、これらの材質は適宜変更可能である。たとえば、縦枠パイプ３１、旋回パイプ４１、横架パイプ５１および補強パイプ６１の全部または一部を樹脂製のパイプで構成することも可能である。そうすることで物干し具１，１′の軽量化を図ることができる。

【００４９】

また、上述した実施形態では、横架部材５を物干し竿として用いた場合を説明したが、横架部材５は物干し竿以外の用途、たとえば、タオルなどを収納する収納棚としても用いることも可能である。また、上述した実施形態では、横架部材５のみを物干し竿として用いた場合を示したが、補強部材６も物干し竿として利用することができる。すなわち、補強部材６に直接または小型のハンガーなどの補助具を介してタオルや下着などの洗濯物を干すこともできる。

【００５０】

また、上述した実施形態では、連結補助機構１０として、二つ折りに折り畳み可能な金属製のステーを用いた場合を示したが、旋回部材４は展開位置を保持できる構造であれば他の構造、たとえば、一端が縦枠部材３に取り付けられ、他端が旋回部材４に取り付けられたチェーン構造などを採用することも可能である。

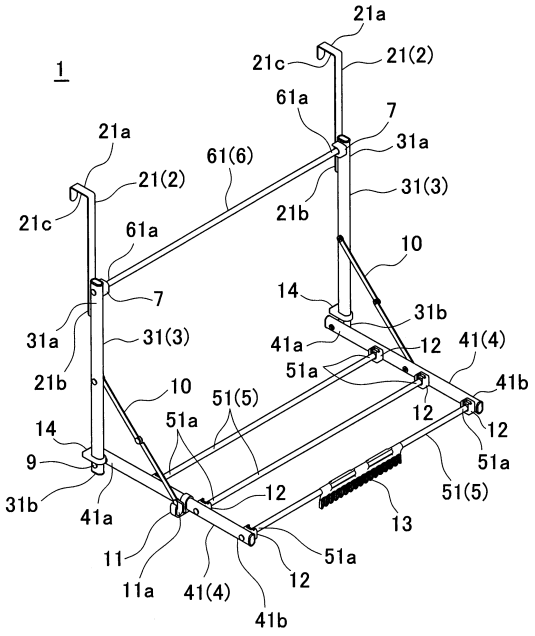
【符号の説明】

【００５１】

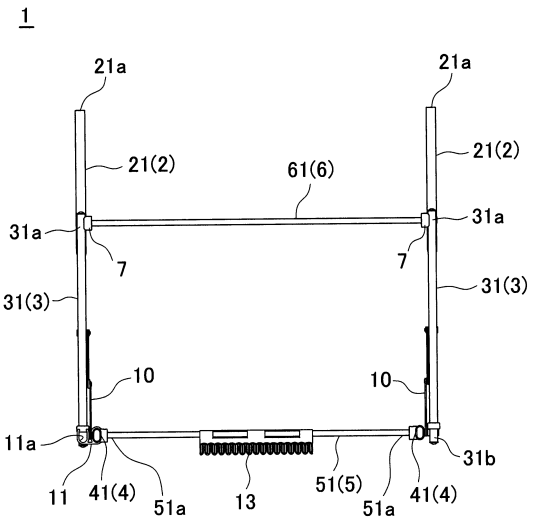
１	物干し具
２	吊下げ部
３	縦枠部材
４	旋回部材
５	横架部材
６	補強部材
７	パイプ装着具
８	留め具
９	連結具
１０	連結補助機構
１１	係合具
１２	横架パイプ装着具
１３	靴下ばさみ
１４	緩衝具
２１	鉤状の部材（鉤状部材）
２１ｃ	鉤状部
３１	縦枠パイプ
４１	旋回パイプ
５１	横架パイプ
６１	補強パイプ
Ｄ	開き扉

【図面】

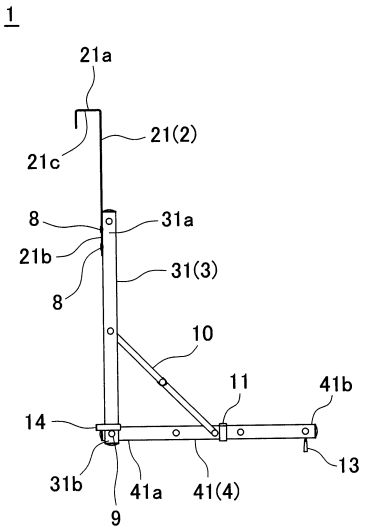
【図１】


1
21a
21c
21(2)
61a
7
31a
61(6)
21(2)
21c
21b
31(3)
61a
10
7
14
31b
31a
31(3)
41a
12
41(4)
21b
51a
41b
10
51(5)
12
51a
14
51a
12
9
51(5)
31b
41a
12
13
11
51a
11a
41(4)
12
41b

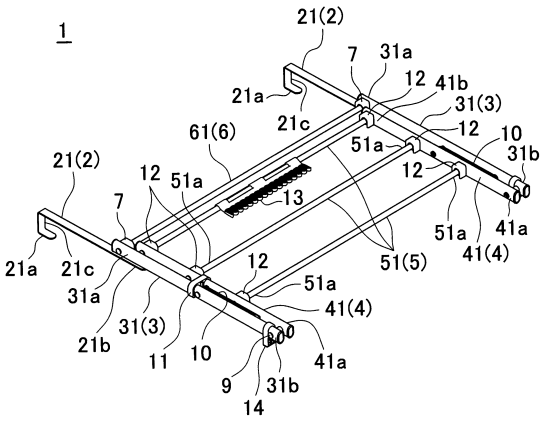
【図２】


1
21a
21a
21(2)
21(2)
61(6)
31a
31a
7
7
31(3)
31(3)
10
10
11a
31b
11
41(4)
51a
13
51(5)
51a
41(4)

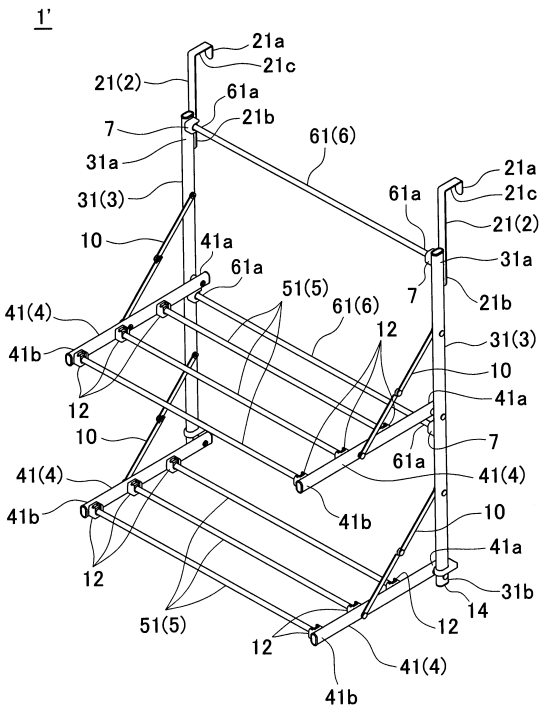
【図３】


1
21a
21c
21(2)
8
31a
21b
31(3)
8
10
11
41b
14
13
31b
41a
41(4)
9

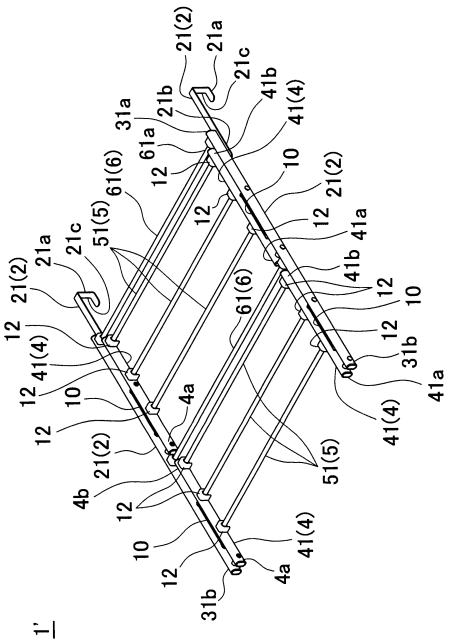
【図４】


1
21(2)
7
31a
12
41b
21a
31(3)
21c
12
10
61(6)
51a
31b
21(2)
12
51a
12
13
7
51a
41a
41(4)
21a
21c
12
51(5)
31a
51a
41(4)
21b
31(3)
11
10
41a
9
31b
14

【図５】


1'
21a
21c
21(2)
61a
21b
7
61(6)
31a
31(3)
10
41a
61a
51(5)
41(4)
41b
12
14
31b
4a
4b

【図６】


1'
21(2)
21a
21c
41b
41(4)
31a
21b
61a
12
10
61(6)
51(5)
41a
31b
4a
4b

フロントページの続き

弁理士　寒川 潔
(72)考案者　中西 大輔
大阪府大阪市中央区島之内一丁目２２番９号 株式会社ＬＩＶ ＰＬＵＳ内